

百里基地を嘉手納のようにする

のがそのねらい

— 10.21 県民集会に参加して —

東海村平和委員会 橋 勝美

先の2・25県民集会に参加して百里基地の米軍機共同使用の計画、背景を学びました。その後、米ブッシュ政権の先制攻撃、対テロ対策等を口実にした長期戦争政策に忠実に追従する日本政府の従属ぶりは、日米軍事同盟の下で、日本を自衛隊、国民を総動員して戦争が出来る国へ進めようとする危険な動きがますます強まっていますことを考えさせられます。

10・21集会での内藤弁護士講演や、連帯あいさつ、実行委員会の報告を聞いて百里基地の共同使用はまさに茨城の空、海を沖繩のように自由勝手に使い、危険にさらすもの、治安を悪化させることであることがはっきりしたと知りました。

首都圏の日本基地防衛が主目的の百里基地は、中国、北朝鮮など北方向に向かって常に発達する体勢が任務であり北方直下下に大洗、東海の原子力施設があり航空機事故が起これば本当に取り返しのつかない事態になることが心配です。

私事ですが「春の桜、秋の紅葉」を空の上から見たくて2人乗りのウルトラライトプレーンと呼ばれる軽飛行機(時速70～100km)に乗っていますが、楽しみの中でも本当に緊張で疲れます。ましてや音速あるいはそれ以上の超スピードで飛ぶ戦闘機は、エンジン、機体の故障に加えパイロットの操縦ミスも当然考えられ事故も頻発に起こっています。

百里、茨城の空に米軍機が来ないことが当面一番の安全です。戦争はしない、平和な暮らしこそ圧倒的な県民多数の願いであり、日本の空に米軍機はいらないと願う全国の運動に連帯していきましょう。



10・21国際反戦デー！

地域に広げ、地域からたたかいて！

下妻市職員組合 渡慶次 信夫

下妻地域では、下妻地区が中心となって実行委員会が結成され、毎年「10・21国際反戦デー下妻地区集会」が開催されています。今年は、10月20日に下妻市中央公民館を会場に開催され、市内外から40名あまりが参加しました。

最初に、下妻9条の会代表世話人の渡辺茂さんからお話をいただきました。渡辺さんは、「自分たちの年代は戦争最後の証言者」として、市内宋道地区での米艦載機による機銃掃射のことなどを話していただきました。

下妻母親連絡会の笠島道子さんは、「激戦の跡を訪ねて」と題して、サイパンの様子を紹介してくれました。サイパンなどでは、サンゴ礁に置き去りの戦車があったり、砂浜にコンクリートのトーチカが埋もれていたりするそうです。サイパンやグアム等は、観光のイメージが先に立ちます。参加者からは「行ったことはあるが、気がつかなかった。今度機会があればもう少し丁寧に島を見てみたい」との感想が出されました。

市職青婦部の片倉さんは、自治労連作成のシナリオによる「平和紙芝居」を発表しました。憲法の条文が私たちの生活に深く関係していることがよく分る内容で、好評でした。

会場からは、「国際反戦デーの内容をもっと地域に広げ、地域からたたかいていきたい。」との意見が出され、賛同の拍手が起こりました。

10・21 取手地域集会

取手市では地域労連、新婦人、取手平和委員会など9団体の実行委員会主催で13時から取手市市民会館前で70名の参加で集会を行いました。出発式後、「教育基本法反対」、「憲法9条を守れ」を訴えながら、会場から市内を通り取手駅東口までの3kmを元気に平和行進しました。

民話の語り「九条の会」

— つくばみらい公演 —

日時 11月12日 (日) 午後2時～4時
会場 谷井田コミュニティセンター多目的ホール
参加費 無料 保育室あります。

演目

日本国憲法・まちゃんと・おいでおいで・帰ってきた息子・200人の盗賊・嫁姑・他

語る皆さんはどの方々も第1人者の方ばかりでまたとない機会です。ぜひお誘い合わせてご参加ください。
主催 “民話の語り「九条の会」” つくばみらい公演実行委員会

2006 ヌーボーのライオンはいかガ？

勝沼で一番の老舗のライオン製造元で醸造自信を持ってお勧めいたします

甲州ニューボー白 (辛口)

ヌアカットパーリアヌーボー赤

2種類

締め切りは 11月30日まで

配送は 12月10日前後に行います。

料金は 1500円 (内100円還元)



例年、県の財政活動として皆さんにご協力をお願いしていますが各平和委員会は昨年並みの取り組みをお願いいたします。

平和かわら版

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahai@amber.plala.or.jp

№.454
月3回 発行
2006. 11. 5



平和の旅

ー南房総館山戦跡を訪ねてー

土浦平和の会 近藤 輝男
土浦平和委員会では、10月15,16日館山市にある戦跡巡りと南房総の秋を楽しみました。

一行21名は観光バスを仕立て、館山「NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム」へ。事務所にて、愛沢理事長、池田さんよりフォーラムの活動、館山に点在する戦跡や『八丈伝』ゆかりの里見氏遺跡などについて講義を受け、地下壕や自然の地形を利用した零戦用えん体壕、本土初の米軍上陸地点などの戦跡を見学しました。

南房総は、明治以来、首都東京防衛の要塞として砲台建設や航空隊などが、また、先の太平洋戦争でも本土決戦の特攻基地として多くの軍事秘密施設が設置されたと言えます。

全長1.6kmにおよぶ「赤山地下壕」は本土決戦に備え兵器や燃料貯蔵、野戦病院、兵舎などの施設として掘られとされており、ツルハシの掘跡や通信用電話線、発電機が置かれたと思われる台座が残っています。「128高知地下壕」の内部には『戦闘指揮所』、『作戦室』と書かれたコンクリート額が当時のまま残されています。これら地下壕に関する資料が全く不明で当時の証言も少ないということです。

昭和40年、牧師深津文男氏が設立した性被害の婦人保護施設「かにた婦人の村」にある『ああ従軍慰安婦』と刻まれた石碑を見学。石碑からは理不尽な戦争によって、心も身体も踏みにじられた無念の想いが伝わってくるようでした。戦争を体験した世代が年々少なくなる一方で、あの侵略戦争を正当化する動きさえある中で、戦争の傷跡とも言える戦争遺跡を保存し、後世に争いの悲劇、平和の尊さを伝える活動は反戦平和運動の大切な柱です。このNPOフォーラムが高校生や地域住民とともに戦跡の調査・保存の運動を進め、それを生きた教材とし、地域興しや国際交流にまで発展させている活動は立派。夜は、海が一望できる白浜の南海ホテルで、新鮮な海の幸を味わいつつ交流。

(土浦平和の会より取材、紙面の都合上1部分割愛させていただきました)

初心に帰って、9条ポスター一張出を！

この春、「九条の会」の第2号のポスターがつくられました。

改めて「九条の会」のアピールをじっくり眺めて読んでみたいと思います。そこには「この国の主権者である国民一人ひとりが九条を持つ日本国憲法を、自分のものとして選び直し、日々行使していくことが必要です。・・・あらゆる努力を、いまず始める事を訴えます。」とある。組織をつくり運動するのも大きなことですが、アピールはもっと根源的に国民主権者一人ひとりに呼びかけていることを知る必要があります。では、一人ひとりが出来ることは何か。自ら「9条守ろう」と意思表示することです。

演説するのも由。署名とるのも由。チラシを配るのも由。しかし誰にでもできる意思表示にはならない。誰にでもできる事は自分の家の前にポスターを貼ることではないでしょうか（此れとて職業上・立場上出来ない人もいます）。家は路地裏で自立出来ないからという方もいます。主権者としての価値と比べたらどんな意味があるのでしょうか。

ポスターがどれだけ貼れるかは、運動バロメーターでもあり、安倍首相にとっては改憲阻止の大きな壁をつくられることを意味します。平和委員会でもポスターを取り寄せました。ご注文を承りませう。

書籍紹介

「万民救の旗のもとに」の発刊に寄せて

美和・緒川平和の会 小室 道夫

泉平和委員会の元代表理事で、美和・緒川平和の会会長として活躍されている小林茂氏は、今回「万民救の旗のもとに」を発刊しました。ご存知、今から130年前の「小瀬一揆」をまとめ上げた力作です。

「私はすでに70代、残された人生はそれほど長くはない。今まとめておかなければ、日本の近代史の一つの足跡を残したふるさとの歴史も忘れ去られてしまう。」と著者自身、農民であり、農民の立場からの視点で、ノンフィクション文学の形式で書き上げたと言われています。



万民救の旗
一揆農民 櫻 鳴 軒 作

作品の中で、農民がついに爆発し4名の巡査の惨劇は、私自身も竹槍をもって、その場に居合わせているような異様な気持ちになりました。

「竹槍でどんと突き出す2分5厘」農民2千人の一揆は多くの犠牲を払いましたが、政府をおいつめました。

現在の私たちは、この教訓を学びとり、減税を勝ちとった歴史と伝統を生かすときです。

多くの方の読んでいただきたいと思います。尚、拙筆ですが題字を依頼され書きました。

(定価 1050円 お問合 泉・平和委員会まで)



事務局便
日本平和委員会代表理事・内藤功弁護士から電話があった。「先日10日でしたか？」と「10日集まること、反応を聞いてきた。万円で以上集まると言ってくるとは、良かったです。」と伊達さんは返事、「それはいいですね、内藤さん。最も現実的な評価基準、これはいい(ま)